

へえ、さすが余裕やなあ

三月三日 火曜日 へえ、さすが余裕やなあ

今日は、兄貴の京大受験の日。
ひさしぶりに兄貴と一緒に家を出る。

そう寒くはない。
宇治川の景色が、霞がかかり、
朝日で、ぼんやりと目に映る。

「もう春か。」と思わず、
僕は口に出しながら、観月橋を渡った。

なんだが、大変不安である。
その気持ちと、言葉には相関はない。

「僕がいくら心配しても仕方ない。」
とは思えど、やはり心配になる。

しかし、兄貴とは、
試験に関係のない事を言い合い、
観月橋の駅で、電車を待つ。

兄貴は、平然としている。

僕の方が、落ち着きがない様子に感じた。

今日は、学校では、
中学一年の面接の日である。
自分の昔のあの緊張がよみがえって来る。

